

春城雜纂

十二

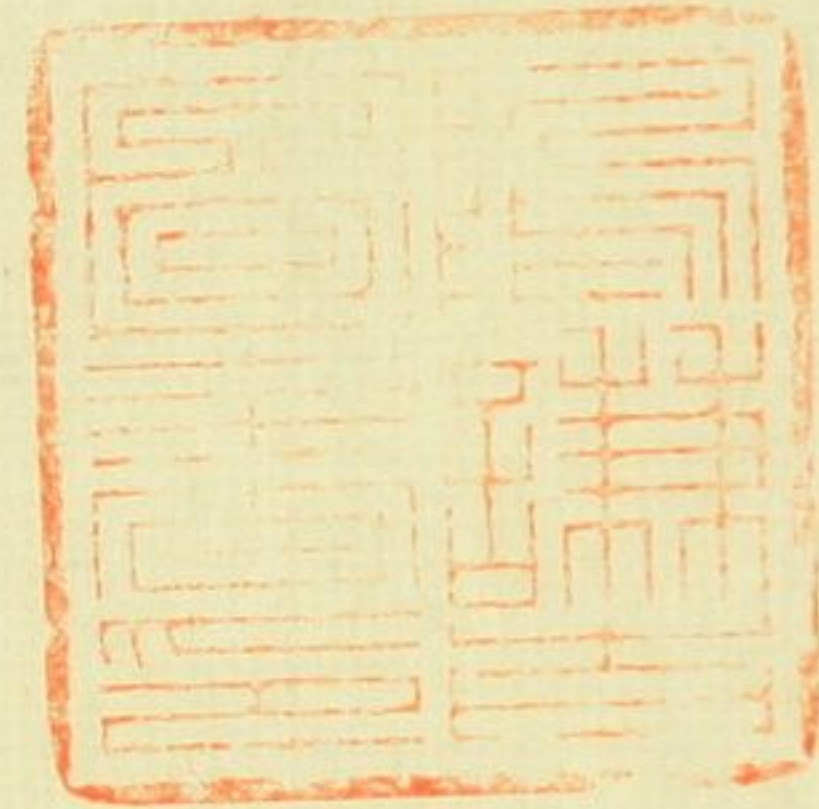
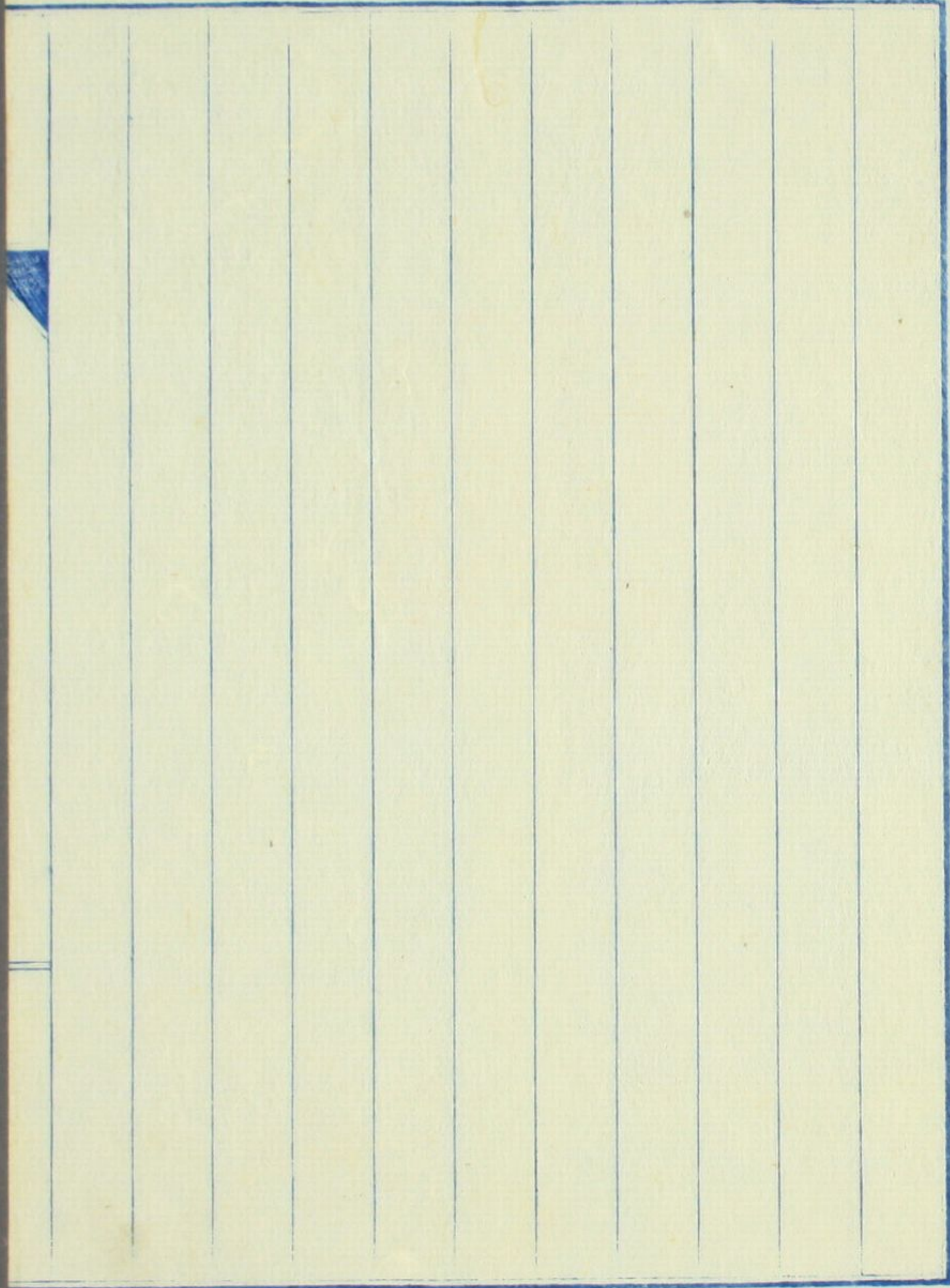
山田家長在懷書
友矣、以法ヲ行ス建儀
何為結黨

特別

14

1919

681



何以結黨

我党ハ断然其主義ヲ明示シ判然其高フ所ヲ定メサルヘカラ
 ス而レテ其主義ハ渺漠渾沌タル者ニ非ラスシテ必ラス判別
 明知スヘキ者タルヘシ又我党高フ所ノ主義ハ一時暫且ノ者ニ
 非ラスシテ億万斯年ニ傳フヘキ者タルヘシ前言ヲ反覆シテ
 ニテ謂ヘハ我党高フ所ノ規模ハ杜恢遠大ナルヲ要シ其施ス
 所ノ秩序ハ周密近切ナルヲ貴トフ故ニ我党ハ先ツ其所操
 ノ大主義ヲ一定シ漸ク之ヲ時局ノ重キ者ニ充用シ財政ノ
 事ハ此ノ如クスヘシ外交ノ事ハ此ノ如クスヘシ其ハ此ノ如ク
 其ハ彼ノ如シト明示スヘシ蓋シ大主義ニシテ未タ之ヲ定メス
 唯々隨時ノ問案ニノミ應對シテ其説ヲ立テハ所操主義ノ

遠大壯振ナラサルカ為ノ過ニ政敵ヲシテ我カ永久持重ノ
謀慮ナキヲ曉ラシメ又我党所説ノ前後相撞着スルアリテ
自説相違ノ大敗ヲ政論ノ戦場ニ取ルコトアレハ也又其大主
義ヲ示スノミニ止マリテ時局ノ細巨ニ及ハサルハ所操主義
ノ渺漠トシテ時事ニ近切ナラサルカ為ノ自カラ世人ノ感動
ヲ惹クニ由ナリ又政敵ノ心ヲ奪フニ便ナラス共ニ雄力ヲ政論
ニ奮ヒ勝ヲ政事ノ上ニ制スル所以ニアラサレハ也今余ヲ以テ之
ヲ觀レハ今ノ政府ハ稍ニ時局ノ細巨ニミ應對スルノ實アリ
ルニ近ク自由党ハ稍ニ唯其大主義ヲ示スニ止マリテ時局ノ
細巨ニ及フコト能ハサルカ如シ唯夫レ然リ故ニ今ノ政府ハ其
措置前後ニ矛盾シ又遠永久持ノ謀ナク自由党ハ其所為

時人ノ感動ヲ惹キ政敵ノ心ヲ奪フニ足ラス共ニ其カヲ異日
ニ振フコト能ハサルヲ觀ル是ヲ以テ我党ハ此二者ノ所為ニ及シ
一ハ以テ遠永久持ノ虞ヲ為シ一ハ以テ隨時近切ノ謀ヲ為
サハルヘカラス

我党ノ旆旗ヲ建ツルハ最モ其機會ヲ擇ハサルヘカラス而シテ
其機會ハ人心ノ未ダ渙散セサル以前ニ於テ之ヲ查出スルヲ要ス
惟フニ開拓使繼續ノ問題ノ如キハ或ハ我党ノ乘シテ我カ旆旗ヲ
建ツヘキノ機會ナラン乎

我党ハ其旆旗ヲ建ツルノ時ニ於テ一大新聞ヲ發見シ以テ我
至義ノ所在ヲ天下ニ告示シ又政敵ト其雄雄ヲ決スルノ器具
ト為ス可シ

我党ハ苟モ時好ニ合ハスコトヲ為スヘカラス苟モ時好ニ合ハス
コトヲ為セハ能ク一時ノ盛大ヲ僥倖スルヲ得ヘシト云ハ是レ既
ニ時好ノ為リニ我カ守操ヲ乱者也異日時好一變セハ其時ニ於
テ我党ハ如何シカ之ヲ憂ス唯其主義ヲ變スルノ醜態ヲ暴露
スルノ事アルニ故ニ我党ハ我カ所操ノ主義ヲ一定シ決シテ時好
ノ為リニ之ヲ動カスヘカラス設セ目下ニ一人ノ賛成者ナキモ我
党ハ我カ所信ノ主義ヲ操テ我カ尚フ所ト為スヘシ前言ヲ反
覆シテ之ヲ謂ヘ我党ハ自カラ日本ノ輿論ヲ導キ輿論ノ
為リニ導カルヘカラス又更ニ之ヲ再言スレハ我カ党ハ我カ主
義ヲ以テ日本ノ輿論ヲ作り之ヲ以テ日本ノ改良ヲ謀ルヘシ
惟フニ若シ我党ニシテ日本ノ輿論ヲ制スルコト能ハス輿論

我ニ従ハサルトキハ是レ我党ノ智畧未タ是ラサルニ由ルナ
リ我党ハ宣シク其智略ヲ奮ヒ忍耐久持シテ我党ノ主義
ヲ實行スヘシ

我党ハ苟モ党人ヲ求ムルコトヲ為スヘカラス苟モ党人ヲ求メハ
党人ノ衆忽チ夥多ヲ致シ一時俄カニ盛大ニ似タルノ
觀アラシ然レモ是レ所謂ル億方ノ心ナルモノニシテ到處乱
臣十人アルノ勝レルモ若カス且ツ其人ヲ撰スモ漫リニ之ヲ取
レハ未應スル者ノ中間々僥倖ヲ企圖スルモノアリテ戦勝
ノ後ハ之ヲ処スルニ難スルコトアリ聞ク今ノ政府既ニ之ヲ失
スト我党宜シク之ニ鑑ミルヘシ
我党ハ結合ノ堅固ナラニコトヲ謀ルカ為メ党中ノ嫉妬心ヲ減

殺スルヲ勉メサルヘカラス夫レ彼此相輕シ互ニ相妬ムハ邦人短所ノ
最ナルモノナリ然リ而シテ斯短所ニシテ能ク補綴スルヲ得リレ
ハ人々孤立シテ相結フコト能ハス党派ノ強大永續得テ期ス可
ラサルナリ故ニ我党ハ勉メテ党中ノ嫉妬心ヲ滅殺スルヲ務メ以テ
一党ノ結合ヲ強カラシメサル可ラス顧フニ彼此相輕シ相妬ムハ原
ト多ク人々相皆ナ自ラ其功ヲ建テ名ヲ博セント欲スルニ根柢ス
是ヲ以テ我党ハ預メ其為スヘキノ事業ヲ合テ党人ノ才識智
力ニ應ジ各々其局ニ當ラシムヘシ今及覆シテ前言ヲ謂ヘハ
我党ハ預メ政務ヲ大別シ若シクハ理財若クハ外交若シクハ
執法等トシ党人ノ所長ニ執テ各々其方面ニ當ラシメ縦マ
マニ其技倆ヲ伸スヲ得セシムヘシ惟フニ我党ニ能ク斯ノ如
クスルヲ得党人ナシテ各々自ラ好シテ其事ヲ執ラシメハ毋
ハ以テ党中相妬ムノ陋弊ヲ避ルヲ得外ハ以テ活潑有為ノ
現象ヲ示スヲ得ヘシ

我党ハ勉メテ其品行ヲ正フセサルヘカラス顧フニ品行ノ端正ナ
ルニ直接ニ政略ヲ利クスルノ效ナシト虽モ原ト是レ人心ヲ繫ク
ノ一大要器ナレハ間接ニ政略ヲ信セシムルノ用アル事ニ志面
御ハ其謀其畧遠ク人ニ超越スルニ非ラス唯其品行ノ端正ナル
既ニ業ニ世人ノ信用ヲ博ス故ニ一呼シテ數万ノ衆集マル我党
今宜シク其故智ヲ襲クヘシ

我党ハ地方ノ人心ヲ畧取スル為メ機ニ乘シテ人ヲ各地ニ派遣
シ我カ主義ノ傳播ヲ謀ラサルヘカラス而シテ其順序ハ東北

地方ヨリシテ中央ニ及ホシ中央ヨリシテ以テ西南地方ニ及
ホシ各々先ツ其地ノ希望ノ人ヲ求メ之ニ就テ我カ主義ノ根
所ヲ下シ之ヲシテ待ツワノ人心ヲ收攬セシムヘシ

我党ハ中等人ノ属望ヲ得ルヲ勉ムヘシ必スシモ上等人ノ属
望ヲ要セス又心スシモ下等人ノ属望ヲ要セス按スルニ泰西
諸邦ニ在テハ大抵下等人種ノ属望ヲ得ルヲ以テ政事家
ノ秘訣ナリト為ス然レニ我邦今日ノ事情自カラ泰西各
出ト同シカラス中等ノ人種今現ニ日本ノ輿論ヲ制ス故ニ我
党ハ北種族ノ属望ヲ得ルヲ勉ムルヲ切ナリトス顧フニ我党ニ
ノ能ク中等人種ノ属望ヲ得ルヲ漸ク之ヲ涵養スルヲセハ之ヲ
以テ上下ニ種ノ属望ヲ誘致スルヲ得之ヲシテ我用タラシム

ル事者甚タ難カラサルヲ信ス

我党ハ暗ニ地ニ在廷局外ノ官吏ヲ誘引シ之ニ據テ内閣ヲ所謀
ノ脈絡ヲ探知スヘシ顧フニ是事タル稍ニ早怯ニ近シト余任
我邦ノ如キ政事ヲ開示セサル固ホニ在テハ勢ノ終ニ止ムヘカラ
サルモトス又各地方ノ警察官ヲ誘引シテ我党ヲラシメ
之ヲシテ我カ主義ヲ地方ニ播植スルノ妨碍ヲ為スナカラシム
ヘシ

我党ハ漸ク我カ主義ヲ擴充シ之ヲ兵士ニ及ホシ其心ヲシテ我
党ニ服従セシムヘシ此意敵テ兵力ニ藉テ我カ主義ヲ実行セ
ント欲スルニ非ラス唯ニ政敵ノ兵力ニ藉テ我党ヲ抑壓スル
ヲ豫防スルノ具ト為サント欲スルニ而メ之ヲ実行スルノ手

段ハ先ツ將校士官ノ不平ヲ抱クモノヲ誘キ我主義ヲ信セシ
メ徐ニ兵士ニ浸潤セシムルニ在リ是事モ亦夕稍々卑怯ノ
嫌アリ然レ本邦今時ノ事情勢然ラサルヲ得ス

十四年十月十九日

黨友諸士ニ寄セテ党事ヲ論スル書

與ニ同一ノ主義ヲ奉シ同シク国事ニ奔走ス
ル市嶋謙吉書ヲ党友諸士ニ寄セテ事ヲ計畫
スルアラントス謙ハ元ト立憲改進党負十リ
官年北地ニ来リテ上越立憲改進党ノ名簿ヲ
汚スヤ尔来僅ニ一春秋諸士ト交ル未タ篤カ
ラス諸士ノ議論ヲ聞ク甚夕数々下ラス謙カ
上越立憲改進党ニ於ケル其關係ノ密疎自ラ
諸士ト異ナル所ナキニアラス然レ其主義
ヲ奉スルノ熱心ト其利害ヲ體シテ忽漫ニ付

ヒサカノ点ニ於テハ謙竊カニ推ヘラク取テ
諸士ニ譲ラス故ニ客年諸士ノ班ニ列スルヤ
既ニ己ニ中心大ニ抱ク所ノモノアリ敢テ非
見ヲ施カンコトヲ欲セシニ計ラサリキ罪ヲ文
章ニ醸シテヨリ尔来災厄ノ謙カ身ニ及フ者
只ニ一回ノミナラス言論ハ煩ミニ塞カリ次
ヲ公會ニ臨ムノ自由ヲ失ヒ心言ハント欲シ
口言フ能ハサル者斯ニ久矣而シテ謙カ災厄
ノ局ヲ結フハ將サニ近キニアラントス若シ
幸ニシテ好結局ヲ得ハ謙カ諸士ト謀議スル
道之レヨリ啓ラクヘシト雖モ若シ夫レ

一 然ラスンハ謙毫モ諸士ト謀ル所ナクシテ固
固ニ屈セスンハアラス謙カ諸士ト謀議スル
抱テ獄ニ就クニ忍ヒンヤ然トモ謙カ自ラ忍
フ能ハサルハ可ナリ帝々々ノ罪ヲ党友諸
士ニ獲ルヲ奈何センヤ謙カ諸士ト謀議スル
ニ未タ妨ケラレサルノ自由ハ今ヤ僅カニ管
城子ニ托スルアルノミ謙カ此書ヲ裁スル豈
ニ夫レ己ムヲ得テ為サンヤ諸士幸ニ文章ノ
拙方ナルヲ以テ微衰ヲ捨ル勿レ
党友諸士ハ天下今日ノ党勢ヲ目シテ憂患ス
ル者ナシト為ス乎試ミニ客歲以来党派ノ事

ヲ叙スレハ曰ク立憲帝政黨ハ解散セリ曰ク
自由黨ハ三士ヲ走ラシ三士中立憲ヲ組織セ
リ共ニ是レ党派ニ関スル一大變動ニアリカ
ルハナシ然レモ如期ノ運動ハ果シテ廢ス可
キノトトナス乎謙ハ此二事ヲ以テ既ニ黨勢
大ニ衰運ニ屬シタルノ兆ナリト為サ、ルヲ
得サルナリ況ンヤ此二事ヲ外ニシテ現ニ諸
士カ目撃スル如ク自由黨ハ昨年以來數々會
議ヲ開クト雖モ嘗テ其黨勢ヲ挽回セズ我ト
主義ノ大目ヲ同スルノ立憲改進黨スラ尚ホ
且ツ頃來活潑ノ運動ヲ為スヲ見ス要スルニ

夫下一般黨勢ノ沈滯礙澁ハ實ニ今日ニ極マ
レリト云フヘシ抑々政黨ノ效用ハ其運轉活
潑ナルノ間ニ收ムルヲ得ル者ナリソノ進
動運轉スルノ際ニ當テハ各黨互ニ相軋り相
軋ルヲアルモ委靡沈滯振ハサルニ優ルヲ萬
々ナリ今夫レ國會開設ノ期日一日ヨリ遙マ
リ党派利用ノ策ト政治活動ノ術トハ一日モ
忽諸ニ付ス可ニサレノ時ニ當リ天下一般ノ
黨勢ハ既往十四年五年ニ比テ却テ退歩不振
ノ状アルニ於テハ余輩黨事ニ奔走スル者豈
ニ之ヲ國家ノ大患ト為サ、ルヲ得ンヤ況ン

ヤ我ト大同小異ノ主義ヲ持シ常ニ進退ヲ共
ニ與ニスルノ立憲改進党ニシテ沈滞不振ノ
状如斯ナルニ於テオヤ尚不況ンヤ其利害ハ
坐卧ノ霎時ト屈臣念頭ヲ離レサル我カ上越
立憲改進党ノ萎靡沈滞ハ之レヨリ数層ノ甚
レキ者アルニ於テオヤ余輩諸士ト主義ヲ同
フシ常ニ其隆運ヲ冀ヒ其進動ヲ欲スル者烏
ンソ痛哭長大息セサラントスルモ得ヘケン
ヤ時事ニ迂憫ナル謙スラ尚ホ之ヲ憂フ況ン
ヤ時事ニ明アリ我党ニ關係ヲ有スル最モ密
接ナル諸士ニ於テハ蓋シ慨歎ノ情謙ニ數倍

スル者アルナルヘシ呼々夫レ然ラハ今日ハ
他党ノ事ヲ歎々スルニ餘地アルノ時ニアラ
ス將サニ我党及ヒ我レト同一ノ主義ヲ把持
スル立憲改進党ヲ憂フルニ急ナルノ時ナリ
余輩豈ニ夫レ大ニ計畫スル所ナクシテ可ナ
ランヤ
如何シテカ能ク我党ノ改良進歩ヲ図リ如何
シテカ党勢ヲ活潑隆盛ナラシムルヲ得可
キカ謙惟フニ党派ノ區域ヲ伸闊シ大ニ党負
ヲ増加シ先ツ北越全州ニ大運動ヲ試ムルヲ
ヲ企図スルニアルヲ知ルナリ蓋シ地方党カ

政黨ノ原理ニ背馳スル所以ハ諸士既ニ業ニ
之ヲ了ス謙敢テ此等ノ理論ヲ以テ諸士ヲ煩
ハスヲ為サス當タ實際ニ就テ其區域廣闊
ナラス黨員衆多ナラスニ曰下我黨勢ヲ挽
回スル能ハサル所以ヲ述ヘントス抑々黨派
ハ多数ノ意想ヲ集合シタル者ニシテ之ヲ貫
徹スルノ成否ハ一ニ其集合ノ鞏固ナルト否
ト意想ノ多寡ニ由テ判ル矣故ニ衆多ノ人ヲ
包括スルノ下ハ實ニ政黨ノ原則ナリトス謙
今熟々我黨ノ組織ヲ見ルニ其名称ニ冠スル
ニ上越ノ二字ヲ以テシ黨員ハ固トヨリ上越

人ニ限ラサルモ今ノ勢黨員ハ皆ナ上越地方
ノ人ニ止マリ自ラ上越ニ限ルノ態アルコト
ヲ免レス而シテ上越地方廣シト虽モ政治ニ
奔走スルノ人ハ限リ如何ニ我黨運ニシテ
隆盛ニ赴カシムルモ之レト同盟結合事ヲ為
サントスル者ハ其數亦タ大ニ増ス可ラス黨
員既ニ多数ヲ得ル能ハスンハ其運動モ亦タ
活潑ナル能ハサルナリ且ツ夫レ現今各地方
政治ニ奔走スル者ノ乏シキ其自党タリ他党
タルヲ問ハス苟クモ黨事ニ熱心スル者ノ如
キハ概シテ自他私交上ニ於テ與ニ相識ルノ

人ニアラザルハナシ故ニ党派ノ事ヲ計畫ス
ルニ當リ私交上既ニ他ノ意想ヲ判知スルヲ
以テ其ハ期ク謂フ可シ其ノ意ハ然リト来夕
事ヲ議セサルニ先チ早ク既ニ他ノ意ヲ推シ
為メニ私交ト公文トヲ混シ為メニ公事ヲ懈
ルヲ勤ナシトセヌ例ハ月次會ヲ開テ多数
ノ党員常ニ欠席スルカ如キ事ヲ計畫スルニ
當テ深ク意ヲ注カサル如キハ各地方党ノ常
ニ苦シム所ナリ而シテ然ル所以ノ者ハ實
ニ以上ノ情実アルニ主トシテ由ラヌンハア
ラス夫レ如斯地方党ハ多数ノ党員ヲ得ル

能ス私交公文ト混スルノ虞アリ公事ヲ疎漏
ニスルノ弊アリ地方党カ活潑ナル運動ヲ為
ス能ハサル亦夕宜ナル哉客臘嘗テ我党ノ大
會ヲ開テ解党案ヲ議セルナリ諫不幸ニシ
其議席ニ陪セサリシト雖其決スル所ハ尚
ホ依然地方党ヲ以テ居リ改良ヲ加ラル。後
立憲改進党ニ併同スヘシト云フニアリト聞
ク思フニ急驟ノ改革ヲ施スカ如キハ萬種ノ
事ニ於テ諫カ常ニ其弊アラントヲ悲ル。所ナ
リ此ノ決議ノ如キ畢竟事ヲ鄭重ニスルニ出
テ平素諸士カ党事ヲ忽慢ニ附セサルノ一端

ヲ見ルニ是リ賛歎措カサル所ナリト雖且再
 来半歳ノ成迹ニ就テ考フレハ諸士ノ着実手
 段ハ未タ以テ謙ヲノ湍足セサル結果ヲ生シ
 タルヲ見ス思フニ謙ノミ然ルニアラヌ諸士
 モ亦タ謙ト同情ナランヲ知ル蓋シ其然ル所
 以ハ時恰カモ降雪ノ候ニ際シ交通ノ杜絶之
 ヲ致シタル者ナルヘシト雖且竊カニ思フニ
 諸士ノ手段ハ或ハ其宜ヲ誤リタルニ非ル歟
 謙思フニ我党ノ區域ヲシテ苦シ今日ノ如ク
 狭隘ナシメンニハ歳歳日ヲ閱シ幾沿革ヲ經
 諸士ノ改良ニ從事スル何ニ銳意ナルモ其隆

盛ハ決シテ期シ難キヲ恐ル、ナリ諸士請フ
 省思シテ自ヲ微セヨ将来党員ヲ獎勵シ活潑
 ノ運動ヲ為サシムルノ方術アル歟演説會ヲ
 開ントスレハ演説者ハ常ニ同一ノ人タルヲ
 免レサルノ弊アリ月次會ヲ開カントスレハ
 出席負常ニ寡數ナルノ憂アリ之ヲ制シ之ヲ
 矯スノ補策ハ諸士ノ心中ニ定マル者アル歟
 我党運ヲシテ活潑ナラシムルノ方策ハ夙ト
 ニ余輩カ諸士ト共ニ考究解ラサル所ナリ若
 シ夫レ之アラハ豈ニ今日ニ至ル迄之ヲ施サ
 ル、理アラナンヤ蓋シ施サ、ルニアラス之

ヲ得サルニ非スヤ而シテソノ得難キ所以ノ者ハ前段開票スルカ如ク地方党時種ノ不便アルカ故ニ外ナラサル也

果々然ラハ我党ハ立憲改進黨ニ通シ將來運動ヲ共ニ與ニメ以テ挽回ヲ謀ルヘキ乎之レ諸士カ素望也謙カ日夜ニ冀フテ止マサル所ナリ然レモ思フニ立憲改進黨ト運動ヲ與ニスルカ如キハ名称異トニ組織自ラ別アル今日ニ於テスラ尚ホ冥々ノ内進退ヲ同フスル所ナリ謙敢テ立憲改進黨ニ通スルヲ以テ直チニ党勢ヲ活潑ナラシムルヲ得ルト為

リ又故ニ謙カ論旨ノ要ハ立憲改進黨ト聯絡スルニアリト雖モ其理由ハ寧ロ北越全州ニ我党ノ大運動ヲナシ以テ我党勢ノ挽回ヲ謀リ延テ改進黨全般ニ及ホサントスルニ在ルナリ蓋シ改進黨ノ勢ナク其党勢ノ微々タル我北越地方ニ過クル者ナカルヘシ上越ノ如キ我党員七十餘名アリト雖モ下越地方ニ至テハ寥寥々實ニ晨星ヲ数フルカ如ク寧ロ之アリテ云ハンヨリ之ナシト云フテ不可ナキカ如シ下越地方ノ廣ロクシテ而カモ党員ノ如斯ニ僅少ナル豈ニ改進黨主義ノ為メニ太夕憂

フ可ノ事ニアラヌ^ヤ況ンヤ上下ノ別アリト虽
トモ同シク北越地方ナリ下越地方ノ状態如
斯者アル^ヤ豈ニ之ヲ忽視ス可キノ事ナラニヤ
之ヲ勉ムル立憲改進党ヨリ寧ロ我党ニ於テ
切ナリト云フヘシ況ンヤ之ヲ收攬スルハ即
チ我党勢ヲ目下ニ挽回シ其滞礙ヲ将来ニ防
制スルノ利益アルニ於テオヤ謙思フニ我党
ハ宜シク進ムテ党負ヲ廣ロク下越地方ニ集
シ其大ナル者ヲ以テ事ヲ計畫スヘキナリ若
シ夫レ然ラハ私交公文相混スルノ弊ハコ、
ニ初メテ止ニ互ニ刺激シ互ニ淬勵スル情初

メテ煥發シ党勢得テ挽回スヘク他党ノ勢力
得テ挫折スヘク於是乎初メテ我党ノ主義ヲ
貫ヌク^テ得ヘキナリ
然レ^レ之ヲ為サントスレハ先ツ上越ノ二字
ヲ除テ早ク立憲改進党ニ通スルノ至策ナル
ヲ知ルナリ蓋シ我党把持スル所ノ主義ハ立
憲改進党綱領ノ萃ニシテ二三項目ノ挙げサ
ル者アルモ其精神ハ決シテ異ナル者ニアラ
ス然リ而メ世人ハ之ヲ目シテ同一ノ者ト為
カス之ニ就カスシテ彼ニ赴ク者ハ何ニ由テ
然ル乎蓋シ其組織異ニ信用同カラサルカ為

メニアラサレナキヲ得ンヤ例ハ今我上越
ノ人士ニ向テ我党ニ同盟センヲ求ムルニ
当リ其人ニシテ果シテ我黨ノ主義ヲ賛成ス
ル者ナラハ之ニ就カスレテ直チニ立憲改進
党ニ通スヘキハ真ニ親易キノ勢ニシテ余輩
カ諸士ト共ニ徃々目撃スル所ナリ上越ニ於
テスラ既ニ然リ況ンヤ下越人士ヲシテ上越
ノ名称ヲ冠スル党派ニ加ヘントスルニ於テ
オヤ且ツ夫レ地方ノ弊トシテ土地異ナルカ
為メニ彼我相猜ニ相忌ムノ念ヲ按ムヲ免レ
ス殊トニ北越地方ノ如キ上下越ノ別ハ幾ン

ト異郷ノ念ヲ為ス者歎カラス然ルニ今党負
ヲ募集スルニ当テ上越立憲改進党ヲ以テ之
ニ臨マハ能ク肯ンシテ之ニ同盟スル者之
アルヘキ乎其主義ニ不同意ナキモ上越ノ二
字ヲ忌ムテ加盟ヲ拒ム者溜々皆ナシナルヘ
キナリ必竟スルニ我党負カ依然増加セサル
モ上越ノ二字ヲ限リタルニ非サルナキヲ得
ンヤ果シテ然リトセハ今ヤ我党勢ヲ活潑ナ
ラシムルノ時ニ當テ豈ニ亦夕上越ノ限畧ヲ
破碎シテ共同事ヲ為スヨリ急ナル者アラン
ヤ蓋シ思フニ限ルニ上越ヲ以テセルハ当初

我党創始ノ際先ツ一地方ヲ結合スルノ得策
ナリシヲ以テナリ固トヨリ此二字ヲ除存ス
ルニ由テ我党ノ主義ヲ左右ス可キニアラス
況ンヤ立憲改進党ニ联接スルニ由テ能ク我
党ヲ改良セシムルヲ得ハ諸士カ此二字ニ
戀々スルノ意ナキモ亦タ知ルヘシ今ヤ堆雪
將サニ融シ交通初メテ通ス此事ヲ行ハント
スル實ニ今日ニ在ルヲ知ル積雪数月閉居
鬱積ノ情ハ散シテ以テ大ニ党事ヲ計畫スル
ノ材料ト為ス可キナリ思フニ此際我レ先ツ
我党ノ組織ヲ草メ治子ク北越全國ノ改進党

九
負ヲ會シ至便ノ地ヲ撰ムテ大會ヲ開ラクア
ラハ於是乎上下越党負ハ初メテ和同スルヲ
ヲ得テ將乘事ヲ計畫スルニ當リ常ニ至便ヲ
感ス可キナリ嗚呼今日ノ期實ニ失フ可ラス
今ノ際ハ政治社會不活潑ノ状ヲ呈スルノ時
ナリ此際我党負ヲシテ政治ニ倦ムノ念ヲ生
ゼシメハ挽回ノ術愈々難ク遂ニ得テ收拾ス
可ラサルニ至ルヘシ聞ク我党負中客年以來
党勢ノ不活潑ナルヲ見テ之レニ安ンセス脱
党シテ中央ニ入ラントスル者尠カラスト之
ヲ以テ亦タ我党カ地方黨ノ体面ヲ草ムルノ

運ニ至リタルヲトスヘキナリ
英雄機ニ乗シテ起ルトハ余輩カ嘗テ聞ク所
ノ常套語ナリ謙思ヒラク之レ固ト然ルヘシ
ト虽ニ機ヲ作りテ事ヲ挙クル只寧口政治家
ノ勉ムヘキ所ナリ今ノ時ハ政治社會不活潑
ヲ極メ實ニ政治上事ヲ挙クルニ不便ナルノ
時故ヲ以テ人或ハ今日ハ党事ノ變動ヲ図ル
ヘキノ時ニアラスト云フ然レモ謙決シテ之
ヲ取ラス寧口政治甚ク不活潑ナルカ為メニ
乘スヘキノ機會ヲ作ラントヲ欲スルナリ人
亦タ我党ヲ依然舊態ニ保タントヲ辨シテ

曰ク我党樹立以來未タ何等ノ事業アルナ
シ寧口一事業ヲ立テ、後ニ立憲改進黨ニ通
スヘシト我党ノ事業ヲ立テ、一ハ謙モ亦タ
大ニ冀望シテ措カサル所ナリ然レモ之ヲ為
ス上越々立憲改進黨ノ資格ヲ以テスルニアラ
ハレハ取可ナルノ理アル可ラス政黨ハ公事
ナリ僅々一党ノ利益ヲ計ルカ如キハ固ト大
ニ謹マスンハアル可ラサル所ナリ況ンヤ謙
カ計畫スル所ノ如キハ又タ我党ノ一事業ナ
ルニ於テオヤ諸士尚ホ今日ニ於テ地方党ヲ
以テ居ラントスル乎謙カ一身ハ将来實ニ計

ラレス之ヲ以テ聊カ覚負タルノ責ヲ塞カ
トス諸士ニシテ非言ヲ容ル、アラハ謙又夕
快々トシテ獄ニ赴カサルナリ明治十七年四
月帝馮謙吉再拜謹言

官吏及官立公立私立学校教員生徒見習生

政談演説集會ノ儀ニ付建議

明治十四年十一月日某等頓首再拜謹テ書ヲ元老院
議長某公閣下ニ呈ス伏テ惟ミルニ維新以來庶政
更始幕府累世ノ弊政ヲ一新シテ夙トニ諍臣ヲ擢用
シ吏課ヲ責メ賢才ヲ萃メ貿易農桑漁鹽ヲ勸勵シ
務メテ斯民ヲ提擡シテ文化ノ域ニ進マシメントス其他
導誘振實ニ至レリト謂フヘシ而シメ釐政ノ内最
モ彰大ナルモノハ蓋シ言路ヲ洞開シ官民上下ノ情ヲ通セ
シノ恊同一致公同ノ政ヲメ益々昭明ナラシムルノ
聖旨是ナリ戊辰三月 鳳詔始メテ下リテヨリ誓言

ヲ立サセ玉フテ茲ニ幾回皆之ニ依フノ德音ニアラサルハナ
シ而シテ客月十二日ヲ以テ遂ニ明治二十三年ヲ期シ因
會開設ヲ言明セラル、ニ至リタルハ時運、然ラシムル
トコロト虽モ 聖旨常ニ茲ニアリタルヲ以テ非サルヨリ
ハ豈ニ能ク然ルヲ得ンヤ苟シクモ日本國民タルモノ誰カ
聖恩ヲ感体シ此彰大ノ盛舉ヲ贊揚セサルモノアラシマ
然レモ此舉ヤ至重至大其計畫ヤ至難至艱前途實
ニ容易ナラス今ヨリ前途ノ方策ヲ畫スルニ當リテ先
ツ其進路ヲ逐漸スルモノヲ求メテ之ヲ剪削セサルベ
カラス是清明ヲ贊揚スルノ意ニメ實ニ臣子ノ職
分ナリ其等材識庸暗ナリト虽モ聖旨ヲ感体スル

實ニ深シ區々ノ情自ラ禁スル能ハス謹ンテ菲言ヲ閣下
ニ呈シ聊カ前途ノ阻碍ヲ剪除シ聖代洪恩ノ萬一ニ報ス
ルアラントス閣下幸ニ之ヲ裁セヨ所謂某等カ前途ノ
阻碍ト認ムルトコロ、者ハ何ソヤ即チ明治十二年五月九日
太政官達官更其職務ニ係ル外政談講學ヲ目的トシテ公
衆ヲ集メ講談演説ノ席ヲ開ク、禁同明治十三年四月五日
太政官第百十二号布告集會條例第七條ニ陸海軍人常
備豫備後備、兵籍ニ在ルモノ警察官官立公立私立學
校、教員生徒農業工業ノ見習生、政談ヲ禁スル是ナリ
抑モ言論集會自由ノ人生ニ必需ナル固ヨリ禁ヲ待タス
思想ヲ交換シテ自他相益シ以テ交通ヲ活潑ナラシメ以

テ團結ヲ鞏固ナラシメ以テ公益ノ事業ヲ振起シテ
社會幸福ノ進歩ヲ速ナラシムヘシ夫レ然ルカ故ニ英ト謂
ヒ米ト謂ヒ佛ト謂ヒ開明ヲ以テ字存ニ魁首ナル、諸國ニア
リテハ或ハ社會ニ止ムヘカラサルモノトシテ不文ニ之ヲ
了認シ或ハ殊ニ法律ヲ制定シテ之ヲ明許シ萬一、虞ニ供
スル等以テ國家ノ大典トナリ、ルハナシ某等謹シテ成
辰 聖詔五條ヲ捧讀スルニ我邦亦此自由ヲ明許セ
ラレタルモノナルヲ知ル何トテハ廣ク會議ヲ起シ方
機公論ニ決スルト云ヒ上下心ヲ一ニシテ盛ニ経綸ヲ行フ
ト云ヒ官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲ
テ倦マサラシムルト云ヒ旧來、陋習ヲ破リ天地ノ公道

ニ基クト云ヒ智識ヲ世界ニ求メ火ニ 皇基ヲ振起ス
ルト云ヒ悉ク言論集會ノ自由ヲ許スニ非サレハ能ハサレハ
ナリ而ルニ明治十一年七月太政官第ニ拾九号達ヲ以テ始メ
テ警察官ヲシテ演説ヲ監視セシメ其國安ニ妨害アリト認
ムル者ハ禁止スルノ令ヲ布カレ十二年五月九日達ヲ以
テ官吏ノ公衆ヲ集メ演説スルヲ禁止セラレ昨十二年
四月五日第ニ十二号ヲ以テ集會條例十六條ヲ頒布セ
ラル於是乎言論集會遂ニ全ク自由ナルヲ得ス思
フニ 聖意ノ此自由ヲ重シ玉フ如此其レ大ナル
即チ我政府ノ之ヲ遵奉セラル、論ヲ待タズ而メ此制
限アリ必ス制限セサル可ラサルノ理由アリテ存スル

ナラン蓋シ昨年二月七三日ノ勅諭ノ如ク士ノ學文ア
ル者ハ多ク產業ナク農高ノ資産アル者概子智識
ニ乏シク或ハ躁進激ニ涉リテ清明ヲ汚サンコトヲ慮リ一
時ノ改略ヲ施コサレタルニアリテ決シテ永遠ニ保存ス
ヘキモノニアラサルヘシ法ノ一タニ出ル輕ク之ヲ變
スヘキニアラサルハ固リト虽此之ヲシテ其精神ヲ
達セシメンニハ亦タ時ニ從ヒ更革セサル可ラス今マ
我國勢ヲ觀察シ来レハ陸運ノ緒漸ク開ケ今日ノ人
民復々往時ノ人民ニアラス輿論亦タ漸ク社會ヲ制
スルノ勢力ヲ顯シテ彼輕躁浮薄ノ徒ニ其技倆ヲ施サ
シムルノ地ヲ與フルナシ況ンヤ國會開設ノ期已ニ明

示セラレ方ニ今マ經畫之レ急務ナリトス彼ノ集
會條例ノ如キモ何ソ之ニ應スルノ改正ヲササメ可ナ
ランヤ條例中實際ニ於テ不便ヲ見ルモノ蓋シテカラス
抑モ不便ノ生スル是レ之ヲ奉スル人ノ罪ニシテ之ヲ
法ノ罪ト云フヘカラス然レモ法ニ自ラ不便ヲ有ス
ルモノアリ某等條例第七條ヲ以テ法トシテ不便ヲ
有スルモノト認ム之レ銳意削除コトハントスル所以ナリ
夫レ物輕重アリ事大小アリ重大ノ為レニハ輕少ノ屈
セサル可テサル亦タ不得止ナリ 聖意ノ言論集會自
由ヲ重シ玉フ如此ニシテ而シテ彼ノ軍人官吏教員
生徒見習生ヲシテ獨リ 聖詔ノ德澤ニ浴シ必需

ノ自由ヲ享ケ得サラシマルモノハ果シテ全国公衆ヲ
保存スルニ欠ク可ラサルノ由無キニ非サル如シト
虽氏某等之レヲ以テ全国ノ法律トシ天下ニ布告ス
ルノ要ナキモノト思考ス何トナレハ軍人ニ改革思想
アルハ其操縦ニ不便アリ之レヲ禁止セカレ可ラス
トスルモ軍令ヲ禁シテ之ヲ禁止スルハ陸海軍長
官ノ権限ニアリ何リ故ラニ太政府ノ法律ヲ設ケ
治子ク天下ニ布告スルヲ要センヤ然リト虽氏陸海
軍人ノ政談演説禁止ニ関シテハ今閣下ニ建白スル所
ニ非ス特トリ官吏官公私立学校教員生徒見習生輩
ノ政談演説禁止ノ件ノ如キ某等日夜痛歎シテ止ム

能ハサル所ナリ謹シテ按スルニ太政官達ニ官吏ト称スル
ハ文武上下ノ別ナク官省院使府縣ノ勅奏官属官ヲ總一
称スルモノ、如シ抑モ是等官吏カ必需ニ本ツキ 聖意ニ
則リテ保テ得可キノ政談演説自由ノ權ヲ伸張スルニ於
テ如何ノ重大公益ヲ妨害スル所アリトスル乎官吏公
衆ニ向ツテ政談演説ヲ行フハ政略上ノ秘訣ヲ洩ラシ易
キノ恐レアリテ然ル乎軍事外交務ノ如キ或ハ機密ヲ
要スルトコロアリ之レヲ公衆ニ洩ラスハ策ノ得タルモノニ
非ラスト虽要スルニ政府ノ公務ハ概テ公明正大曠日ノ如キ
モノナル可シ且ツ又其秘訣ヲ要スルモノハ軍事外交
務其事項而已ニ止マルモノニシテ是レ一般官吏ノ言

論自由ヲ禁止スル理由トスル能ハサルナリ軍事
外交務ノ秘訣事項ニ関スル小數官吏ノ故ヲ以テ
一般官吏ノ言論自由ヲ殺ク可ラサルナリ加之ナラ
ス其事項ニ與ルノ官吏ト虽氏特別事項ノ洩ラス可
ラサルモノアルカ為メ一般政談演說ヲ禁止セラレ、
ノ故アラシヤ結局事項ノ性質ニ依リ假令秘密洩
ラス可ラサルモノアリトスルモ其長官ノ意見ヲ以テ
或ハ臨時ニ或ハ特別事項ニ命令ヲ出シ章程ヲ
設ケハ則チ可ナラシト改官ノ布達ヲ以テ豫メ一般
官吏ノ政談自由ヲ箱束スルヲ要セサルナリ假令秘
訣ヲ洩ラスノ恐レアリテ一般官吏ノ政談自由ヲ箱

束ス可キモノトスルモ政府ハ己ニ結社政談スルヲ措テ
問ハス焉リ公衆ニ向テ政談演說ヲ為スヲ禁スル而已ニ
ヨリテ秘訣ヲ洩ラスノ虞ニ備フルト為スヲ得ン若シ夫レ
秘訣ヲ洩スノ虞ニ供セント欲セハ私ニ政談演說ヲ為ス
モ亦禁セサル可ラサルナリ某等治子ク萬國ノ史乘ニ
鑑ミ廣ク日本ノ事實ニ察スルニ凡リ秘訣洩ラス可ラ
サルヲ洩ラシ以テ政畧ヲ誤ラシムルモノハ大概官民
私情ノ密話ニアリ却テ公衆ニ向テ公然官務ノ秘
訣ヲ洩ラスモ殆ント稀ナリ夫レ然リ諺布達ノ基ニ
ク所政畧秘訣ヲ洩ラスノ恐レアリト云ヘル趣旨ニ非ル
ヤ明ナリ或ハ曰ク官吏各其職ヲ奉ス人テ之レヲシテ

公衆ニ對シ縱マ、ニ政談演説ヲ行ハシ、ハ或ヒハ官権
ヲ備リ公衆ヲ強迫シ我意ヲ恣マ、ニスルノ恐レナシト
セス是レ官吏ニ高業ヲ禁ムルト同一理ナリト抑モ誤
謬ノ説ト謂フ可シ何トテハ官吏ニ高業ヲ行ハシム
ル如キハ官金ヲ私用シテ私利ヲ營シ官権ヲ借リテ
高買ヲ強迫スルノ恐レアリト由政談演説ニ至リテ
ハ然ラズ其演説シタル趣旨之レヲ取捨スルハ公衆傍
聴者ノ意内ニアレハ官権ヲ借リ人ノ心思ヲ進退スル
能ハサルナリ且ツ假リニ此ノ恐レアリトスルモ官吏
私ニ政略ヲ談スルヲ許ス以上ハ公衆ニ向テ演舌スル而
己ヲ禁シテ之レヲ防セク能ハサルヘシ加之ナラズ

私利ヲ狹シ我意ヲ恣マ、ニセント欲スル狡猾官吏
アリトセハ何リ公衆ヲ會シ公然トシテ之レヲ行フノ
策ヲ為サン必スマ私シニ党派ヲ結ヒ隱々冥々ノ中ニ
漸數ヲ施サント務ムルナル可シ既ニ如斯ナル片ハ先ハ私
ニ政談ヲ為スヲ禁スル最モ欠ク可ラスト然リ而シメ
私ニ政談ヲ為スヲ禁スルノ事タル到底言フ可クシテ望ム
可サルナリ要スルニ公衆ニ向テ政談ヲ禁スルノ違果シテ
論者ノ言ノ如クナラシメハ亦無益ニ過キサルナリ而シテ
職務ヲ疎カニスルノ弊アリト云フモノ亦事理ヲ弁セ
サルノ見ト云フ可シ夫レ政談演舌ハ政事上ノ思想ヲ演
述スル所以ナリ公衆ニ向ッテ之レヲ演述スルヲ禁スル

ト虫氏之レカ為ノ官吏ノ政事思想ヲ禁スル能ハワルナ
リ既ニ政事思想ヲ懐クノ自由アリ既ニ私ニ之レヲ演説
スルノ自由ヲ有ス何ツ公衆ニ向テ演説スルヲ禁シテ
策ノ得タル者トセシヤ且ツ官吏各其職制アリ苟モ
之レニ背キ之レヲ怠タルモノハ各其懲戒ヲ設ク故ニ事
ヲ疎カニシ務メテ情タルモノアラハ其長官之レヲ懲シ
之レヲ免スル何ノ不可トスル所アラシ抑モ法律ノ目
的タル其懲戒スヘキノ行為ヲ定メ其行為有ルモノヲ待
ツテ之レヲ懲戒スルニ過キス何ツ行為ナキノ前ニ於テ
豫メ之ヲ制スルヲ要センヤ論者ノ根據トスル所其
理由無シト云フ可シ或ハ曰ク官職ハ政府ノ設クル

所口而シテ政府ハ故ラニ人民ヲ強迫シテ官吏ト為マ
ニ非ラス然ラハ則チ之レヲ制限シテ政談ノ自由ヲ籍
束スルモ何リ人民ノ自由ヲ妨クルモノトセシ苟モ政談
ノ自由ヲ欲セハ去テ民間ニ就カハ則チ可ナリト蓋シ某
等カ論スル所ニ非ルナリ固ヨリ官吏公衆ヲ會シテ
演説ヲ為スノ禁ハ太政官ノ達ニ過キス全國ノ法律ニシ
テ全國人民ノ言論自由ニ関セサル疑ヒヲ容レス某
等ハ此布達ヲ以テ人民言論自由ヲ害スルモノトシテ
其不当ヲ建白スルニ非ラス唯閣下ニ建白スル所以
ノモノハ既ニ御誓文アリ官吏ニシテ必需自由ヲ與
ヘラレタル以上ハ之レヲ妨害スルニ必要ノ理由ナクシテ之

レヲ禁スルハ 聖意ニ戻トリ必需ニ背クト云フニア
リ必用ニアラサル布達ヲ施ヒテ官吏ノ言論自由ヲ
減殺スルモノハ官吏タル身分ニ對シテ不当ナリト云
フ而已論者ノ言フ所ハ恰モ天理ニ違フノ法律ヲ
見テ政府ハ其國內ニ不当ノ法律ヲ布クモ何ワ人
間ノ自由ヲ妨害スルト云フヲ得ン若シ不当ナリト
セハ何ヲ速ニ去テ外國ニ移ラサル政府ハ其國內ニ
在ル可シト束縛セサルナリト云フニ異ナラス是レ人
間ノ推理如何ニ関シテ毫モ不當ノ法律ニアラスト虽
一國人民ノ身分ヲ存スルモノニ對シテハ所謂天理
ニ違フモノト云ハサルヘケンヤ之ヲ概スルニ官吏公

衆ノ前ニ政談演説ヲ為スノ禁ハ日本人民ノ自由如何ニ
関シテ毫モ関係スル所ナシト虽其禁タル苟モ必需
ニ非スノ聖意ニ戻トリ天理ニ背クモノナル是則其等
カ執テ以テ官吏ノ身分ニ對シテ不當ノ禁トスル一所
ナリ

官吏ノ集會演説ヲ禁スルノ非前叙ノ如シ今更ニ一步ヲ
進メテ教員生徒見習生ノ集會演説ヲ禁スルモ同シク當ヲ
得サルヲ聞察セン抑モ一國人民タルモノ其階級ノ如何ヲ問
ハス又其職業ノ如何ヲ論セス苟モ社會ニアルノ人ハ必ス
政事上ノ思想ナクシハ能ハサルナリ世或ハ政事ヲ以テ一
種ノ職業ノ如ク誤認シ己レ之レニ意ナキ則チ之ヲ知

ラスノ可ナリト云フモノアリ謬謬甚シキモノト
云フヘシ蓋シ政事ナルモノハ各人世ニ處スルニ当
テ知ラサルヘカラサル者ナリ而メ之ヲ知ルノ要
小ニシテハ一身ノ幸福ヲ進捗セシメ大ニシテハ
一國ヲシテ旺盛鞏固ナラシムル彼洞明國民力常ニ
政事上ノ思想、富ムヲ以テ知ルヘシ政事上ノ思想ノ
人民ニ於ケル斯ノ如ク至重ナレハ之ヲ發達セシム
ル實ニ教育ノ一大目的ナリト言サルヲ得ス己ニ
教育ニメ處世ノ道ヲ知シメ政事上ノ思想ヲ發達
セシムル目的其一二居ルトセハ之ヲ受ルノ學生ニ
シテ決シテ集會演説ノ政談ニ涉リテ不可ナルノ

理由アルヲナキヤ明ナリ唯ニ不可ナキ而已ナラス
之レヲ禁シ實地政事ノ如何ヲ知ラシメサレハ學
生ヲシテ徒ニ書冊ニ拘泥スルノ弊ヲ生シ終ニ謬見
ヲ抱キ真理ヲ悟ルヲ得ス迷霧ノ間ニ一生ヲ誤ラシム
ルニ至ラン之レ某等カ集會演説ノ學生ニ害アラ
カル而已ナラス大ニ益スルトコロアリト云フ所以ナ
リ且ツ夫ノ物理ノ學ハ現ニ實物ヲ以テ實際ニ試
驗セシムルニアラスヤ而シテ社會ニ接シテ政事ニ
與ルハ同シク是レ政事學生ノ實驗ニアラスヤ齊
シク是レ實驗ナリ甲ハ洋沓靜閑ヲ要シ乙ハ活
潑有為ヲ要ス其深沓靜閑ナルモノ政府之ヲ許シ

其治滯有為ナルモノヲ忌ニテ之ヲ禁スルハ豈ニ權
衡ヲ失フ甚シキニアラスヤ然レモ或ハ言フモノア
ラニ凡ソ學藝ヲ練習スルニ深沈靜閑ニ身ヲ置ク
ヲ要ス既ニ學藝ヲ練習シ又タ政壇ニ臨ムトキハ靜閑
ヲ妨クル而已ナラス勤學ノ時間ヲ失スル亦タ少
ナラスト此ノ駁論一理ナキニアラサレモ未タ之ヲ以テ
政府カ特ニ學生ノ為メニ法律ヲ制定スルノ理由ト
ナスニ是ラス凡ソ學生ノ目的トスルトコロ一ニメ是ラ
ス或ハ理學ノ蘊奧ヲ極メントスル者マリ或ハ法律
政事ヲ研究シテ社會ニ實用セントスルモノアリ
而シテ其學術ノ性質ニヨリテ或ハ靜閑深沈ノ

ミヲ要スルアリ或ハ實際ノ事体ヲ目撃セサレハ學其
用ヲナサ・ルモノアリ論者ノ言ハ一種ノ學術ニ偏シ之ヲ
論スル者ト云フ可シ蓋シ官私學共ニ規則アリ是レ其
學校ノ性質ト其學生智力ノ度ニ應シテ制定シタル
モノナレハ是ヲ以テ學生ヲ制スルニ是ル政府ハ宜シク
之ヲ任シテ可ナラニ是レヲ之レナサスシテ却テ學生ノ
為メ法律ヲ制定シテ其利ヲ見ル能ハサル人アリ政府
ヲ指シテ保護ノ適度ヲ失スト云フモ未タ知ルヘカラス
況ンヤ此ノ法律ニメ箱束ヲ解サルハ或ハ政治ニ熱中
スルモノヲシテ學校ニ入り學術ヲ練習スルノ志氣ヲ
朽キ以テ終生真正ノ政治如何ヲ知ラシメス政理ヲ冥々ノ

中ニ探り或ハ妄率輕行世ヲ擾乱スルノ賊子トナラザルヲ
保セス豈ニ悚然タラサルヲ得ンヤ或ハ謂ハシテ學生演説集
會ノ箱束ヲ解タトキハ粗暴ノ徒ヲ生シテ社會ヲ擾乱
スルノ基ヲラント是レ決シテ然ラス抑モ粗暴ノ言ヲ
ナスモノ何ソ学生ニ限ラン苟シクモ粗暴ノ徒ナカラ
シメント欲セハ一般人民ヲ壓束スルノ一途アルノミ況
ンヤ今古ノ事實ニ徴シ事物ノ真理ヲ問フニ粗暴ハ學
者社會ニ少ナクシテ事理ヲ弁セサルノ無學人民
ニ多シトス然リ而シテ法律ヲ設クル却テ粗暴少キ學
生ニ嚴ニシテ無智淺識ノ公衆ニ寛ナルハ何ソヤ尚ホ説
ヲナスモノアラシ私立學校ノ生徒ハ前叙ノ如ク箱束

スヘカラストスルモ彼ノ官立學校ナルモノハ此ニ異ニシ官
府ノ自ラ制定シ之レニ入ルト入ラサルハ學生ノ自ラ撰フ
所固ヨリ甘シテ禁ヲ受サルヘカラスト是レ日本人民ノ身
分ヨリスレハ毫モ自由ヲ害スル所ナシト虽モ必需ニアラ
ズシテ之ヲ禁スル彼ノ官立學校生徒ノ身分ニ取リテハ
不當ノ法律ト云カル可ラサル猶ホ前条官吏ノ項ニ陳述
シタルカ如シ前條例スル論理ニシテ誤ララシメハ學生ヲ
箱束スル更ニ效ナキ而已ナラス却テ害アルモノト云
カルヲ得ス

竊ニ推ルニ嚮後八年間ヲ期シテ國會開設アラセラレ
シト實ニ容易ノ業ニアラス之カ經畫ニ任スル政府ノ

責任ヤ亦タ大ナリ抑モ八年ノ期タル長遠ナルカ如シト
虽政治上ニ取りテハ殆ト條忽ノ間ニ均シキノミ迄ク
明治七年以來國會論ノ沿革ニ徴スルモ其理ヤ實ニ
明々ナリ況ヤ人事ノ常ナキ往々非常ノ禍難連生
シテ改進ノ路ヲ妨クルモノアリ百里ヲ行ク者ハ九十
里ニ半ハス政治ニアリテモ業ハ数倍ノ重大ヲ覺
ヘテ而右之ニ臨マズンハ其域ニ至ル殆ト期ス可ラサ
ルナリ恭ク思フニ維新ノ宏業其果斷如彼是今
日ノ盛治ヲ馴致シタル所以ナリ今回ノ大業豈戊辰
ノ舉ニ讓ランヤ某等竊ニ謂フ國會開設ノ舉其
至難王政復古ニ勝ルヲ遠シト彼ノ一新ノ業タル

盛ハ則チ成盛ナリ天下ノ耳目ハ因リテ一変シタリト
虽其實ハ數強藩ノ協力同心霸府ヲ例シタルニ外ナラ
ス其間固ヨリ幾多ノ艱難ヲ經過スト虽此之ヲ今日我
國未曾有同國ノ規模ヲ立テサレラレ四民一致立憲為
政ノ基ヲ創建セララルニ比スレハ何リ善ニ霄壤ノ異
ナルノミナランヤ又々嘗テ集議院ヲ開キ公議人ヲ
徴セラレシト云フモ亦々是レ勤王諸藩ノ議事ナルノ
ミ之ヲ整頓スルノ人才其人ニ乏カラサレハ則チ可ナリ
今ヤ然ラス我カ 天皇陛下ハ明治廿三年ヲ期シテ
議員ヲ召集シ國會ヲ開設セントノ 勅諭アリ
則チ廣ク代議ノ士ヲ全國ニ求メ之レカ純良公正ノ

議決ヲ以 聖旨ヲ翼賛センヲ望マセラル蓋シ
此等ヤ二千五百年來創始ノ業ナレハ其哲願ノ因
難ナル亦々想像ス可キナリ 歐米各國代議ノ制已
ニ幾世ヲ経過シタルノ由ニアリテモ尚且議院ノ哲
願完全ヲ得サル者其レ多シ況ヤ新創ノ國會ニア
リテハ之ヲ調理スル豈ニ二三自任政事家ノ克ク
為ス所ナランヤ 獨裁專治ノ政体ニアリテハ播
根ヲ断ッ極メテ容易ナリト虽君民同治ノ治体ヲ
立ルニ於テ一刀兩断ノ專決ヲ用フ可ラス
聖旨已ニ平和ノ改良ヲ望マセラル豈ニ武断天
下ヲ震慄スル維新ノ舉ヲ倣フヲ得ンヤ之ヲ

避ケント欲セハ先ツ之カ備ヘヲ為スニ若カス之カ備
ヲ為スハ只々豫メ人民ヲシテ代議ノ政治ヲ悟ラシメ
上下ヲシテ感應ノ期ヲ得セシムルニアルナリ代議ノ
政治ヲ悟ラシメンニハ廣ク政談ノ自由ヲ得セシムルニ
アリ感應ノ期ヲ得セシメンニハ上下互ニ私意ヲ去リ
公論ヲ主トセシムルニアルナリ之ヲ為サント欲セハ先
ツ官吏學生ノ政談ヲ自由ニシテ政府人民共ニ議政
ノ術ニ慣レ感應ノ途ニ就カシム是レ最モ今日ノ急務
トスル所ナリ大凡多數ノ論壇ニアリテハ活機ハ其元
素ノ運動中ヨリ生ス元素ノ良否ニヨリテ活機ノ変
遷アリ其親和如何ニヨリテ運轉ノ因清ト渋滞トヲ生

ス政治ノ進歩ヲシテ平坦ナラシメント欲セハ先ツ其元素
ヲ精鍊スルニアリ即チ官民ヲシテ代議ノ政治ニ慣レシ
ハル是ナリ我邦今日ノ状況ヲ回顧スルニ大ニ此点ニ於
テ欠クル所アルヲ覺フルナリ今ヤ在朝ノ人概子卓
落奇オヲ以テ維新ノ鴻圖ヲ振起シタルノ士ナリト虽
晨夜事端百出ノ苟ニ當テ曾テ公衆ニ向テ演説等ヲ
為スノ機會アラサル則チ彼ノ代議ノ政体ニアリテ政
党ヲ團結シ勝ヲ改論壇上ニ制スルノ術ニ至リテハ或在
野ノ處士ニ方ルヲナカランヤ然レニ既ニ國會ヲ開カル
、政府モ党派利用ノ策講セサル可ラス改論制勝ノ
方難セサル可ラス若シ夫レ然ラワンカ國會開設ノ除

ニ當リ政府ノ旨趣貫徹セサルノ不便ハ言ヲ待ス為ニ
政治ノ運轉ヲシテ扞格セシムルニ至ラン學生ノ社會ノ
進路ニ入ラントスル者必マ其術ニ習ハサル可ラス活潑有
為ノ演説ヲナサスシテ將來邦家ノ需メニ應セシメント
スル抑モ亦タ難シ是レ則チ邦家ノ材ヲ嫩葉ニ断ツモ
ノト云フヘシ豈ニ政府ノ望ム所ナランヤ豈ニ愛國者
ノ希フ所ナランヤ立憲準備ノ經畫ヲナス必スヤ官
吏學生ヲシテ改談ヲ自由ナラシメサル可ラサルナリ
若夫感應ノ成否ニ関シテハ某等更ニ菲言ヲ上ラスン
ハアラサルナリ事業ヲ創ムルニ當リ論者互ニ隔心アリ
或ハ趣旨相通セス各其私ヲ主張スルニ至チハ平和ノ

改良ヲ期スルヤ實ニ難シ未タ經畫ノ成ラサル業ニ
己ニ紛擾ヲ醸シ為ニ國會ノ開斯ヲシテ遲延セシムル
ニ至ラニ遲延セシムルモ可ナリト云フ者ハ

聖詔期シ玉フ所ニ違フ者ナリ之ヲ不可ナリトメ高且
之ヲ辭クルノ方ヲ講セサル月ク是レ 聖詔ニ違フ
モノナリ其開期ニ際シテ陰鬱ノ氣氾濫瀆列スルニ
於テハ或ハ支離收拾ス可ラサルノ不幸ヲ招クナキコ
得ンヤ其等恩念此ニ至リテ惶悸自ラ禁スルヲ能ハサ
ルナリ時務ニ疎濶ナルノ論者ハ或ハ云ハン均ク
聖旨ヲ奉戴ノ經畫ニ從事スル何リ説ノ大差違
アルノ理アラシヤト嗟如此ハ昂テ立憲ノ重大ヲ忽

(以下未完ナリ)

